

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

北上川と共に生きた平泉文化 第15弾

—平泉文化を後世に残すため【国の取り組み】—

衣川と接待館遺跡

一関遊水地事業により遺跡を発見、衣川堤防のルート変更

遺跡発見まで

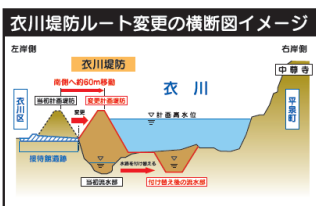
一関遊水地事業に伴い、北上川の支川・衣川の堤防を造る工事が計画されました。この築堤は、2002（平成14）年の水害で大きな被害を受けた奥州市衣川地区の暮らしを守るためでした。

堤防用地内の埋蔵文化財発掘調査を行ったところ、「接待館遺跡」が存在することがわかりました。堀や大量のかわらけが発見されたことから、柳之御所と同様に、堀の内側でかわらけを使った儀式が盛んに行われていたと考えられています。

堤防ルートの変更へ

発掘調査が進み、接待館遺跡が重要な遺跡であると徐々にわかってきたため、岩手県と奥州市から国土交通省へ「治水対策の促進と、接待館遺跡の現状保存との両立」についての要望がありました。

この要望を踏まえ、国土交通省は、遺跡付近の約700m区間を、衣川の流路ごと南側の平泉町側に約60m移動して遺跡を迂回することとしました。



堤防ルート変更の経緯

- 2002年 (平成14年4月) 衣川築堤に着手
- 2004年 (平成16年10月) 「接待館」遺跡発見
- 2006年 (平成18年5月) 衣川築堤工事を中断
- 2007年 (平成19年2月) 衣川地区へ説明 (岩手県)
- 2007年 (平氏19年3月) 岩手県・奥州市から国土交通省東北地方整備局へ要望
- 2007年 (平成19年3月) 遺跡保存のための堤防ルートを変更決定
- 2010年 (平成22年2月) 「柳之御所・平泉遺跡群」の一部として国史跡に指定

※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svuttoujyo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
 第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470 第4弾 NO.478 第5弾 NO.479 第6弾 NO.480
 第7弾 NO.482 第8弾 NO.486 第9弾 NO.487 第10弾 NO.493 第11弾 NO.495 第12弾 NO.506 第13弾 NO.508 第14弾 NO.509

※北上川学習交流館 あいぼーと展示資料より